

月刊 葛飾FCニュース

VOL5 2001 初秋号

URL: <http://by3.co.jp/kfc/>

サッカーをするにも、見るにも良い季節となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、2学期の保護者が9月16日葛飾公民館で開かれました。お忙しい中お集りくださいました皆様、御苦労さまでした。たくさんの方が参加されましたので内容のほうはごく簡単に御紹介致します。

1) 事務局長から

葛飾FC設立の経緯について

コーチをはじめ、全員のボランティアで成り立っていることの確認
引き続きの協力をお願いします

2) 代表から

皆様の協力のおかげで葛飾FCの形が出来てきた。運営はとてスムーズ

半年間活動してきて事故がなく過ごせたことが良かった。

欲をいえばチーム力が少し足りない。勝つことが一番ではないが、やるからには勝ちたいという思いもある。

3) コーチ紹介

加藤コーチ、金子コーチ、青木コーチ、横堀コーチ、大崎コーチ

根城コーチ、八木コーチ、勝井コーチ 挨拶順

勝ち負けにこだわらない指導を心掛けます。

コーチ間で良く話し合っって葛飾FCとして一貫した指導を心掛けます。

4) 活動報告

5) トイレ掃除について改めて協力のお願い

6) 試合時の移動方法について確認

原則は電車、バスなどの公共機関を使って移動。状況により車で移動することもある。(但しクラブが指定した車を使用)

チームとしての行動を心掛ける。

7) ユニフォームについて

1～4年生 クラブのユニフォームを使用

5、6年生 個人のものを使用

ストッキング 1～3年生 白、4年生 青、5、6年生 黒

将来的にユニフォームはチーム持ちの方針で(パンツはサイズの関

係で個人持ち、ストッキングも個人持ち)

ユニフォームの管理は学年ごとに責任をもって行う。

8) 練習時の服装について

練習着は特に指定しないがすね当てとストッキングは着用する。(3年生以上、けが防止と習慣にするため)

9) サッカースクールについて

新規入部の方へ説明と追加申し込み受け付け

10) 今後の予定

11月4日に行われる秋季6年生大会の会場校を引き受けました。

11) 会計報告は年度末に致します

フットサル用のミニゴールを購入したい。

12) 葛飾小サッカー部(学校体育)代表早川さんより

サッカー部(学校体育)の部費の残高を葛飾FC(社会体育)へ寄付してはどうかとの提案があり、4年生以上の保護者の拍手によって承認されました。

13) 学年ごとに懇談、質疑応答

保護者同士(コーチも)が相互理解のできるいい機会だったと思います。

葛飾FCはまだ生まれただけです。これからもみんなで前向きな意見を出し合っって一緒に成長していきましょう。

東武カップ5年生大会予選突破！！

9月30日 於 三咲小

対 宮本小SC 6—0

対 七林FC 2—0

1位上がりで見事決勝トーナメントに進出。勝利至上主義ではありませんがやはり勝ると子供たちはもちろん、親も嬉しいものです。この日の葛飾はどの子どもみんな積極的にボールに食らい付いているという感じでした。決して諦めず全員が一生懸命やった結果が勝利に結びついたと思います。

決勝トーナメントは10月28日(日)、湊町小学校にて9:30キックオフの予定です。応援をよろしくをお願いします。

北習カップ3年生4年生サッカー大会

10月14日 4年生大会 於 習志野台第一小

対 北習FC 0—10

対 高郷FC 3—1 勝ち

対 二和FC 4—2

10月14日 3年生大会 於 行田西小

秋晴れの空の下、両会場です。3、4年生の大会が開かれました。結果だけを見ると

満足できないかも知れませんが、大会という、ふだんの練習とは違った雰囲気の中でサッカーをすることで得られたものがあるはず。3、4年生はまだまだ勝てなくてもいいし、勝てなくて当たり前です。まだ始めたばかりなのですから・・・それよりも、気持ちいい天気の中で、サッカー仲間と一緒に、思いっきり体を動かして、あ～おもしろい一日だった、と子供たちが思えばそれでいいと思います。たとえ楽しくなかった一日でも、どうして楽しめなかったのか、どうしたら今度から楽しくできるのかを子供たち自身が一番良く知っていて、次に自分はどうしたいのかを自分で見つけるいい機会になるでしょう。練習すればいくらでも上手になれます。上手になって、楽しいサッカーをいっぱい見つけよう！

市川 BAYFC (二俣小) と練習試合をしました。10月8日、あ

いにくの雨でしたが、4年生以上が元気に行ってきました。その感想を横堀代表と青木コーチに伺いました。

【横堀代表】

2試合の練習試合を通じて小生が感じたことを報告します。

葛飾の全学年に共通しているのが「個人の技術レベル」が低い点です。

特に二俣との試合では強い印象を受けました。相手は4年生でしたが葛飾の5年、6年と比べて個人技がしっかりしていました。試合には勝ちましたが内容は相手の方が明らかに上でした。

4年生では守備が難しい事もわかりました。サッカーでは守備ができないと勝てません。他方、守備は個人の技量だけではなく組織的動きが重要です。組織的動きには適格な状況判断が必要です。4年生の年代ではこの状況判断の能力が未熟です。従って、組織的動きを練習で教えるようとしても理解出来ないと考えます。無理に押し込むと、子供達が自分で判断する事をしなくなる恐れがあります。やはり、低学年はしっかりした技術、特にドリブル等を修得させる方が良いと考えます。ドリブルでボールを運ぶ楽しさを教えながら、正確なキックを習得させるのが最適ではないでしょうか？ただし、試合に勝つ事は難しいです。

組織的な守備を教えるのは5年生の夏ぐらいからでも間に合います。目標は卒業時にサッカーの基本を理解していれば良いのですから、目先の試合に勝つ事はそれ程重要ではありません。

今後の指導方針として

基礎技術の習得

1—3年生 低学年ではドリブルの楽しさを教える。

ボールを怖がらないようにする

ボールに慣れる

体を動かす事の楽しさを体験する

4-5年生	ドリブルを含めたボールコントロールの習得 正確なキックの習得 1対1に勝てる技術 攻撃、守備 自分で考える習慣をつける
5年生後半から	組織プレーの基礎 攻撃 2対1 パスプレー 壁パス等の習得 守備の基礎 カバーリング
6年生	状況判断能力の向上 組織的な攻撃、守備 状況判断の基礎 「予測する」習慣をつける よりパワーのあるキックを身につける
ミニゲーム等は子供達が喜ぶ練習ですから積極的に取り入れます。ただし、コーチは学年に応じた指導をする事が肝要です	
1-2年生	あまり指示をしない、子供達が好きなようにやらせる 怪我には注意
3-4年生	あまり指示をしない 積極的に動く 点を取る喜びを知る ボールを取られたら追う ボールをとったらシュート 相手をかわす、抜き去る楽しさを知る 組織的なプレーの指導はしない。
5-6年生	組織プレーの基礎 守備のカバーリング 味方ボールに対するサポート 攻撃では one- two を積極的に使う

各学年に共通していることは、正確なボールコントロールとキックです。

そして、自分で判断する習慣をつけさせることです。

現6年生は時間があまりありませんが、やはり基礎を徹底的に修得させたいと考えます。しっかりボールを蹴る事ができる子供が数人しか居ません。技術が未熟だから、ボールを持った時に全く余裕がない。結果として、ただ、前に蹴ってしまう。また、自分からボールをもらいにいかない。この悪循環を断ち切らないとサッカーの楽しさを知る事ができないので卒業しそうです。

サッカーでは自分の前に来るボールを蹴るよりも自分でボールをもらってプレーした方が楽で楽しいのです。守備でも自分から相手ボールを取りに行った方が面白いです。

楽しいサッカーとはやはりボールを自在に操れることです。

【青木コーチ】

私もクラブとしての指導方針を個人の基本レベルの向上にすることは大賛成です。特に3年生からサッカーを始めた子供達には2年間ぐらいは集中的にボールを蹴る、止める、運ぶ事を教えることは大切だと思います。

市川BAYFC の子供たちは2年生の時から指導して2年間で現在の姿になっています。3年生の半ばまではお団子サッカーから抜けられない子供たちでした。もちろん全員サッカーを基本理念に持っていましたので、試合にはほんとに勝てない時期もありました。しかし、ボールをコントロールすること、自分で判断することに関しては一貫した指導はしてきました。

葛飾でも4年生以下は同じような指導方針で大人のエゴを出さないようなサッカー環境を作っていければと思います。

5、6年に関しても本来は同じ考え方で指導するべきですが、現状を考えると組織的な要素を含めたメニューも必要と思われます。でも、基本技術が無ければ組織プレーは出来ないのも現実ですので時間の有るかぎり基本動作の習得に努めることは賛成です。

低学年の子供たちも増えてきていますので、指導方法の調整のミーティングを一度開催してもいいかなと思います。指導者の意思統一と長いスパンでの育成を行っていけるような土壌を造って行きたいと思います。

～サッカーをする子を持つ親の方に～

サンフレッチェがジュニアチームの親に配っている文章です

- 【練習や試合を見に行ってください】
もし時間があるなら、子供と楽しみの時間を共有してあげてください。子供もそれを望んでいるはずです。
- 【選手達の判断を尊重してあげましょう】
自分で判断をし、プレーをすることが、サッカーでもっとも楽しく、そして重要なことです。外からの声で彼らの判断に圧力をかけないようにしましょう。
- 【レフェリーの判定を批判しないようにしましょう】
たとえミスジャッジがあったとしても、それも含めてサッカーというスポーツなのです。子供達がフェアプレーの精神を学ぶのがいいにならないようにしましょう。
- 【試合ではすべての子供達を応援してあげましょう】
自分の子供だけにならないよう、チームのサポーターになってあげてください。
- 【ゲームでは、相手のいいプレーにも拍手をしてあげましょう】
相手チームは敵ではなく、サッカーを愛する仲間です。相手チームのいいプレーに対しても拍手をしてあげることが子供たちにとつ

てもいい影響を与えるはずですよ。

- 【試合が楽しかったか、エキサイティングだったか、聞いてあげましょう】
大切なのは、勝敗よりもサッカーを楽しむことです。結果だけを聞いていると、勝敗に対するプレッシャーを与えてしまいます。
- 【クラブでの役割は指導者に相談して下さい】
クラブでの仕事をサポートしていただけること、特にけが等の不慮の出来事の際などは非常にありがたいことです。しかし、子供たちのためと行って行うことも、やりすぎてしまうと、時には選手が自立することの妨げとなることもあります。
- 【身体づくりの手助けをしてあげましょう】
身体づくりには、トレーニングだけでなく、バランスのとれた食事と十分な睡眠、そして規則正しい生活習慣が欠かせません。子供たちがより楽しくサッカーができるように、身体づくりの手助けをしてあげましょう。
- 【勝敗で指導者にプレッシャーをかけないようにしましょう】
コーチたちは目先の勝利よりも、一人一人の選手たちを将来に向けて大きく育てようと指導しています。親が目先の勝利にこだわってしまうと、結局はそのしわ寄せが子供たちにくることになってしまいます。
- 【子供たちがサッカーすることを刺激し、勇気づけてあげましょう】
調子のよいときだけでなく、調子の悪いときもはげましてあげましょう。ただし過度の期待は、子供にとってのプレッシャーとなり、知らず知らずのうちに子供をおい詰めてしまう場合があります。サッカーをするのは、あなたでなく、あなたの子供たちなのです。子どもたちには、「子ども」でいさせてあげましょう。

子供やサッカーに対する親のスタンスを的確に表現していると思いました。解っていてもなかなか出来ないときもあり、このような文章をスタッフや親が見ることはとても良いことだと思います。

10番目の「サッカーをするのは、あなたでなく、あなたの子供たちなのです。

子どもたちには、『子ども』でいさせてあげましょう。」
とても大切な気持ちだと思います。 (青木繁佳)

【編集後記】葛飾FC 設立半年で、あらゆる面でクラブとしての方向性が問われる時期になったようです。半年間手探りでやってきた中でようやくこれからどうしていけばいいのかわかるといって話しかけようとしたことや改善すべき点などコーチやスタッフに遠慮なく話してみてもいい。教えて下さい。親も子ども楽しめるクラブであるために、皆さんの御協力をお願いします。 (青木和代)